

# 農地の将来を話し合う「地域計画」の策定に向けて

## 「地域計画」とは



地域農業を持続させていくための方針と、「目標地図」という農地ひと筆ごとの10年後の耕作者の計画です。

地域の農地を誰が耕作するのか、地域の環境や暮らしをどのように守っていくかを、農業者だけでなく、地域の皆さんの話し合いの結果をもとに、県や農協などの関係機関と協力しながら町が「地域計画」を策定します。

この計画は、国が定める「農業経営基盤強化促進法」という法律で定められており、令和5年4月～令和7年3月に策定することになっています。

## 町の農業の現状

町の基幹産業である農業の10年後はどうなっていると思いますか？

このままだと、働き手の4割が85歳を超え、高齢化が急加速しリタイアによる働き手の急な減少につながってしまいます。

地域の農地・農業を守り、多くの方々によって育成されたブランドをさらに発展させるため、農業者や地域の皆さんとともに「地域計画」のご協力をお願いします。

## 地域計画策定の流れ

### ① 農業者への意向調査

農地所有者の方々に、将来の農地管理について調査を行います。

### ② 意向調査結果のまとめ

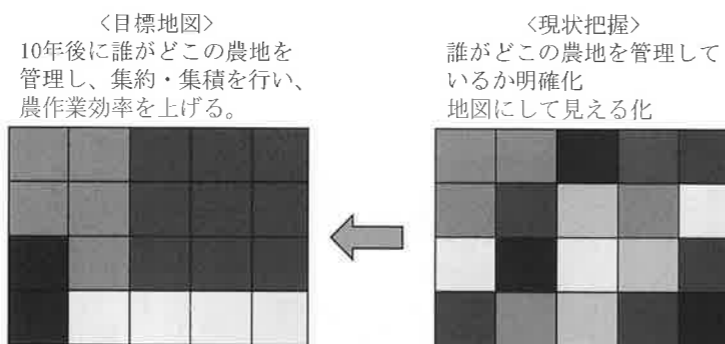
意向調査の結果をもとに、農地ごとに10年後の耕作状況や管理状況を把握します。

### ③ 将来の地域農業や農地利用について話し合い

将来、農地ごとに誰が耕作するか(担い手をどうするか)、どう利用するかを地域の皆さんで話し合い、その結果を地図に落とし、将来の姿を描きます。

### ④ 地域計画の策定

地域で話し合った内容をもとに地域計画を策定します。



## あとがき

令和6年は元日に能登半島地震の発生、3日に飛行機事故、北九州小倉火事と不幸な出来事でスタートしました。しかしその反面、株式市場では東証時価総額がバブル期の約660兆円をこの1月に超え、900兆円に。さらに、バブル期のNTTを超えてトヨタが日本企業で歴代最大の時価総額となりました。また、指定野菜にプロコリーが追加されること決定されました。指定野菜の追加は約50年ぶりだそうです。新年度は大きな変化の年となるかもしれません。

下田和浩 農業委員

## 第14回ブラッシュアップ品評会 りんごの部(サンふじ)

賞	氏名	地区
最優秀賞	鈴木 駿介	横 堰
優秀賞	古幡 豊和	佐野上
優良賞	山口 剛	金 倉
審査員賞	山戸 敬太	箱 山
<b>NEW!</b> 新人賞	鈴木 駿介	横 堰

今年度から同一品目で3回最優秀賞を受賞された方を「名人」に認定します。

令和5年度名人認定者 古幡 豊和さん

村田さんは今年43歳。7年間豊野の農園に勤められ、昨年4月に独立、就農されました。耕作面積は約70aで、宇木地区でりんご、戸狩地区で桃を栽培されています。



湯本 貴博さん (菅一)

今後は桃の園地を増やしたい。また、園地のある戸狩地区に住みたい」と抱負を語ってくださいました。

今後の活躍に期待し、応援していきたいと思っています。

(下田健志 推進委員)

小野郁生さんを紹介します。小野さんは埼玉出身。長野市内のスポーツ用品店に就職したことを機に長野県に移住して11年になります。



小野 郁生さん (小丸山)

北信農業農村支援センターで紹介された里親さんのもとで2年間研修をし、就農されました。現在、りんごとぶどう合計70aの農地を耕作しています。

1年目は研修の成果があり順調に作業ができたので、これからは種無し巨峰を中心に規模拡大をしていきたいそうです。

(湯本久万 推進委員)

# 新規就農しました!

今回紹介する湯本貴博さんは、菅地区で昨年より就農されました。

前職は消防署に勤務し、地域のために尽力されてきましたが、以前から「物を作る仕事をしたかった。両親が育ててきた農園を継いで一から物作りをしたい」と



湯本 貴博さん (菅一)

思われていたそうです。

現在、りんごを中心としてその他に桃も栽培されていますが、新たにぶどう栽培にも挑戦してみたいと県の農業道場や各都県の講習会等に参加し、勉強中とのこと。今後は果樹研究会にも参加し、地域の仲間と共に頑張っていきたいそうです。

安定した経営を目指し、おいしい果物作りに励みたいと話しておられました。

今後の活躍に期待しています。

(上原仁 農業委員)

上条の滝澤圭佑さんを紹介いたします。

圭佑さんは神奈川県の商品開発や品質管理の仕事をしていましたが、コロナの流行などがあり、都会で生活するよりも、生まれた場所で生きて



滝澤 圭佑さん (中村)

いきたいと思われ就農されました。

今は両親と共に、りんご、桃を2ha栽培されています。

「まずは自分にできることを増やし、多くのことを知ることに、具体的な抱負を見つけれようになること。不安なこともありますが、人とのつながりを大切に助け合っていきたいです」と話されていました。

ご家族や地域の皆さんと共に、これからも元気に楽しく、頑張ってください。

(湯本浩 農業委員)